[illegible]

[illegible]

[illegible]

薄陽の沼のほとりにて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

白髯

君と称とされ貴きもの治まる
國で久しき　杉風
ちるを下也拙も江州白髯の明
神を宮神みく市内の玉洗江
ゆ霊夢の告まつる
よう慈き生活ゆと宣旨と
蒙りぬと白髯の明神より勅使
生活九重の宮も長閑な
春の色ゆく髯を洗へば花菌の
志賀の山都うつるて野の入江
乃浦ゆ浦ゆ入るろ
だらうる浪も白髯の宮居ゆく
見はきるゆく　釣月

仕方なう風も浪間あきくきみと
棹ちあるく海ゆ舟づろう急たる
うゆ出うれ　風帰帆を送る萬里
はていい江天潮とくとくうた
いうまりたうく臭きやうてう
のあめ面白やはしをうへ入うへ言ゆ
ぶれ長りうろびて峯白ゆ咲花
乃ぶも白ゆ目うきかの　鯛
海考心を言紙の　きをうりうき
花ちそびうれ岡吹よまるゆく
潜ゆ舟乃浦乃浦乃
もくと船ろうてあまつかりゆる
都路の山道も苔ゆ
冰く　ゆ翁ゆ入洗浦

乃者り　はつせ山浦の漁夫まつが
おさまりく沖へ出釣を仕きりまげ
市ノ海をとんなれば洗ふりまてんん
別りはあ住ま物ありぶ都ようれば
しまを治まて市ノ中へ　会よくみく
ゆ和れ光の面入ようよ仕へなりはト
ありゲ君洗ま行ま　きれば聖夢ちは
告ままんまりの勅使を来りよて
ゆ義や者をして　だよか行を弱び
給ノ洗ノ行ノ陸ノ光の行ようく有難
きいやーきあ面ノ洗ようまでも
直成代ノ者ノ三の漁ノぶつきの恵を
を頼もるり　会ノ行ようても者と
ありぶちんをうやまま応ありぶどう

めぐみ者ノ行ようん　ノ東まい
有ようう　上青ノ　ノ文ようこ
自撃ノ行ノ行ノ撃ノ行ノ撃ノ行ノ
我ノ心ノ者ノ三ノ毋ノ釣ノ義ノ行ノ
も者ノ者ノ者ノ洗ノ者ノ洗ノ者ノ
有義やく　丈洗国のもう家と
よ他ノ有ノ者ノ者ノ者ノ者ノ者ノ
まりまりくありとしてぶ指くぎ
もう有の義よりべ天地とでよ
ようくなだいくりぎんうう人泰
二萬歳の時　かきう世る面天よ
出世ノ給ノときノ大ノ世ノ釋ノる其ノ
きもとえて勅章天よ位ノ給ノ

我が相州道の法ばいまう流布の
地に流れきたりて有よう有べきやうやうして此
さまを著く為にして
所詮ばかりくとあるべき海
たんよう切宗生意有佛性無有愛易此波乃老一葉の芦よ
住無有愛易此波乃老一葉の芦よ
きりかのまつくぞとくの鴻とあるべ
此の大宮殿現実とどのあり
堪ぬ人妻百歳の時ぞ迷とまれ
給てハ十年乃至の頭が面面
右脇が横揺の浪と貪りきぬ
佛ぞ常住不滅法界の妙法華
八首の乃塔の鴻と明中津
國と世界とどくなる時いうかいやめ

いうやせずして新の法
仏の字を人きたび家よりは歌に芸
林麓ぞ波や志賀の浦の島よ釣
をたくさん翁あり尺そるかきよ向
つくぞ翁を此地のめったたくべ此
山と我よあ天まいまろ此の地
とあるべしと宣べ此翁公そ
やう我人寿ぞ歳の初めより此
山の主として此水の七度まで
芦原よりもぞまりよんたりし
翁也ぞ此地ぞつかいと成なべ
釣とる有ぞあべしやとみると貴
ぞまば沢る力あ人寿光よ
ぞんと去行べ東方より海

[illegible]世界のあるとは華厳経を出給
ひしよりきかんかや釋尊とは仏法
をひろめ給ひし事なれば我人寿二万
歳のとしなりし此百歳を生きぬ者
菊のもとにて此山を
菊のもとにて此山を
惜まんべきやうや開闔生死我も此
山の主となりて五百歳の
法を尋ねしとぞ
沙門二佛涅槃の
菊も今は白髭の翁
ぎありとよかほどを卿ある事社
とかつる菊の露ふんなるよ杖ぼつりる
へ行とつ出べきぞいつへも釣
をたまへ菊のるが勅使を慰め申

けんとて笑ひ家よりたつ孫更
と雪の天燈龍灯
時節あれば特く
沙門の
菊の音をもとさ
釣の菊とみつるぶ白髭の翁
とて雪のぶらと押ひらさの社檀よ
入きりく
孫もとよきねがも拝もとく
ぶちびわきる物
人のうやまつよう厨とまんば
してや昼の勅の使ぞつぎてもて
ぶりつ
ぎや社檀のうち
よりもく沙門よ所かはぎを出

[illegible]

[illegible]

[illegible]

國久

行より出屋敷より申べき事乃作
伊勢やまくらのそ　吟ハ剛東より
りとおべ見ゝ限り吹べし清水
乃方へ樂を立て給へ　早川　引れ社
安さのさいぐめりよ面く東山乃方へ
樂を立られ作へ　蘭学や大慈
大悲の観世音ちゝを草ぎゝを
かゝこゝき誓ひ申ま　称一人会り頼ま
ありまして　年値遇乃世縁
縁世ありかゝやゝ　忘恩乃結ぶや
いたうまの清水寺の花園　ゆゝ去
あるさのゝ縁う那　音よ考くあもを
とな山　澤潔四どべ　ちゝ見

懐を尽物物とてきまぜく錦と
ゝかゝ銅乃方へまいりゝ思
乃限り叫べき東縁よ思立ゝ名
給ゝき　我ゝまゝ　馬の家
よ生れ世よかられなきゝとて思の
けゝる所の様行れ道　蘭の東よ流れき
師自身と行浪ゝゝゝゝ　様ゝん
懐き別とゝ松けゝ　宮かゝ
ようの作ゝ　見やゝ　洗ゝも帰ゝも
わゝくゝ　気も生ゝ　坂の
蘭学も今の我とゝ　もとめ
乃長橋ゝゝ濃り　歌も鏡山
けゝゝ年へ　義へ　春宵乃
桜とゝゝやゝ　ゝつゝ浦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]と洗曉[illegible]と伝出されて
作[illegible]法は指入付刻み[illegible]よ掘き洗
経去屋殿乃内[illegible]
[illegible]
向よ頭[illegible]二巻[illegible]
我洗[illegible]月清水乃観世音を信ト
毎日供経と懺[illegible]
今月ハ来讀誦[illegible]
[illegible]経と讀誦ヤ唐
[illegible]
[illegible]
大悲ハ薩埵乃出[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

三悪道へ入るべしやうの物しるべ
露の命は情まをいはんとすれば
きれぬ菩提心出れば法華一紙
ぺん西方へ入るべし海山不限絵
く物しかも為の観世音ぞ三世の利益同
しくかの聖よりうきをのがれよ
いでもべきや威久今絵の通りの
くつに頼るや　芦のまくらぞ
う睡眠のうちにぞ夢
を家にてはいとはいとはるる物やば
明暁八巻の島にて此家朝の時鐘
今ありさやくはいとへとよ　弥まう
きたる事あれば左よ八宗の法経
右よわれひの除入をの命をとと限

あれば昼ぞ洗ひ門出入り庭よ
くく立出る前後をひてみ
つ昼ぞ別乃島の鞠　鐘もき
あうる東雲よ　鶏も鳴
由井乃行よ　憑きまり
月清やく夜の学入つ出まる病
梅由井乃行よ　夢路と
あはもせ早ぞ　ぞを給べ
威久やて所よ　清水乃方へ
うぞと西よ向いて　観音のぱる
と唱へて待きれぞ　大分なよま
つつ称念乃聲のぱ　ようを大分
振揚きべてきいよ清経の えう眼よ
きりう音一ちる大力をみきべ二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

青陽の紫煙とうけ水晶の水鏡と
つ風ぐうやうの入れはすがうつく[illegible]
たゞしさやあまつく秋八洛陽東山の
清水のあるうよりはげ高よ美うり
うりおうよう大意大悲の誓願あど
ゝ音四とても秋と
へ[illegible]る時節の玉鉦入笑きのごべ
いやんやはゝ月多年の美を抽む
で[illegible]人よまちしうり[illegible]思つべ
し秋はげ分[illegible]替へべし宣あく
夢入即さめよきく感久貴くぶか
て縁[illegible]限り新頼月見を
関る世は暁の[illegible]想も同じ苦ご
あゝたあるは信感かりぎうち

其時感久夢覚けるあるて
感久とうひ前を立きれば
めつゝの感久志ゞうとて簾をあ勢
てめさるれば とてもあさ感久が
ばかれ萬感入まといき感ぐ
盃を下ちるまバ 八分の世ぞと蔵
乃酒 [illegible]きるる秋小いつに
感久ぞうひさきあ辛家潘代の侍武
異乃達者ばよハ乱舞堂鈴ゆ
関る及ぐれうう一年小松殿かは山は
て筆将の逆路れ御酒宴よとて
金馬の感久一曲一拍へ中岡東と
き隠あ対文目れ行れ行れば
一行まは有ち有ち歩で仕う人

[illegible]

貴命あり感人が[illegible]時[illegible]

[illegible]

[illegible]

やう道しるく実もあさの方ちり女性人
多くつ我を堂をとうきをつようさげ四成
人をくまーまひぞ　是八此仏を
よまを女をくひ時をこうあれこよ
ひりも此堂を清りこそ者勤さ
機縁をくまり四殆じ八男の目
あるまりは縁をとうこ佛とあるく
うびをいべざるさだ五障三従の此身
あれば涙ありやもも晴ぐき心乃水れ
蜀ををを尋ーて濁よ前よう導
し給へ　時　此紀をとこを仏ずとあをと
所ぞれ社会乱のうあれ佛と弔れや
べきさど去八仏をそまーまとぞ　ぞべ
其ん中あらのしべしだへ仏れ前やし

白拍子八此國より出ー人也都よりう
藤女のかまれ世を時き給ーが後
よ八故郷あれどもく此國を海ー終よ
家ありく宮あり跡乃ちーて
此堂の露と消ー其跡なり
ーごやはいーくの其ろよ学ぇ
仏ぞあれあさ改ものも久ーとりて約の
帝ーの前ー者ーとーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

感涙を落しつゝ都へ
掛直れば俤今迄とも
人や浦　我れ行く
世をもお霜の分れゆく
草の庵の霧あれや
世よ堂の
かぎの草尾花の秋の
うらよりきく
原のゝ
をあく
きく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

暑い島

昨日は諸国一見の僧をくに我いまぶ
陸奥をくだりて西をたづね行道
男ども立うとの濱一見をかやと
よよきいなぐうう行よ。立山禪定
すさびやと思ひ。立山はいかに
立山よりをくいかに拾
男ども拾もまれ洗立山よりをくて
まいりうう成ちごくれ方様をても
思まあ人の心を覺ぬ
うやは山路よりうちまいれ
い惡敵の漢語ぐ濱もちよ
伝ん惣思ひ時うて山下より
きれく成備中へ

きるゝ人行事をてゝ陸奥へ
ゆくべき作りて高らかに
賓をて法師ゆてゝ者の名ゝ秋
ゆまかりくゝ其妻やよの宿を尋
作あてゝ人ゝ義家向てゝ人と
行へ見奥かきうんすと形あ
ゝ作べき事ゝあき程のゆすく
ゆりあるゝ作ゝ作ゝやもてやゝ
序義作べき　宮殿あるゝ
あてきかゝるまゝ
ゆゝ世ゝ今ゝ作ゝ時と此屏きゝの
ゆきあゝ袖をゝて　もとゝ
をゝゝゝゝ接陸ゝ立ゝ
ゝ其跡ゝ雲ゝ煙ゝ立山ゝ

きゝゝ客僧ゝ奥へゝゝゝ亡者
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝ宮ゝゝゝゝゝゝゝ
世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ恩愛ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

程ふる人の空よりしてへやかう所成
り〳〵べきとして人べき所ろれそうあ
はぎあれ油をとまて給りてい程よ
是占持くまりてゐ所場たのかる
夕乃かい　是夢うやまゝ
手れ田長のあさ人乃ゆあくぬ
後りれ出ぎり〳〵りよ心許あさ
あれべいけや形をみれ高家まど
ゆよれる教授　ころも久しきの
乃おり　人名出　よりかんきべ
青　疑ひもおつを何きれうんごろきく
一童あれなん今ふれべ油ありきそう蓋
なりう乃僧や　接く蛍帰れ入
ぱ法とかされれるの中よ亡者れらを

あるこ乃笠と社手向きれたこの笠と社
ふ向れ　南無鶴寄生龍宝乾頂仏
堂尾　堂奥入り　乃後あるよこ
島なり成色へりうやもかる　見う
と永離三悪道此度のくべ音れ
ぬ一たりたぎ　三悪道とは道る
べ　いりよいもんや洗ゆ乃ため造立
供涙よ頭らんもや縋ぐれん大紅蓮
ありたぐ音り智火よへ清急ぎ　食
撥大焦熱ちりれ法水よかり
去ぎ〳〵洗ゆれもき罪科乃ぞろへ
れりやもりれ島きぞきりと教法
宿罪れ霜露恵日乃ほよ照し給を
清僧　面へ陸奥入ぬ　ぎくようを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中一日一夜過ごして眠るうち
九夏の天も暑を
たもつ
鹿を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世せんで者、をめげえあ者、と鳥と
ころもてやどやしゆをよぎんしひまど
たちえぬるゆぬまどうのもしひろ
うとつ八ぶへつく鶯と鶯知そ
あつたりきるがぐれかな猪場れで
きうぶもれうろ地ちもれあな
ぶよ書れてあうとうやと
かぶ安き傳あさ乃乾しひを傳を
きてうべや市備ぶまくたべ屋
市備と云かと打るへう練よきも

小塩

花よりつろ顔の雫くかれやば
あるを外接ひ者ハ下京多よ
位者ちる去ちく伝梅も大原野乃
花じを感水也所ゆ岡居さ人どを
伴ひ人今大原山と高仁
面白やいぶく高れど有かく花も
都のおもあへる大原山の花桜
人を感とゆ花のうくぶ向乃独を
ろ侍よ色そ義乃世とえて打
もまづる產乃世の花やゆよまる
流く　ちほりして花といざ
乃祇ぶく岩水乃紫とくやる
年姫まで数を岩ぬちる名れど花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はつ雪の天も花みやえ[illegible]
おれうづむ夕霞かぎろひ人の面影
ありとみつ紙よまきりく　早川
ぞや今の老人なつかしみつる
ゆ梅ハ小塩の神代の古歌和その歌
よ幸平の花よ詠ぶく京生涯度の
波顕ゆ[illegible]　思ひ露も面
さろ乃ゆく[illegible]ろとろるも花ぶ[illegible]
法の道乃べよ[illegible]も寧[illegible]語
ろく　月やあ[illegible]
春なるめ神[illegible]
甲上
[illegible]ぎやむ[illegible]
花乃車乃やどりわき人の[illegible]
[illegible]

上花の[illegible]
のあ[illegible]
ろ紅乃[illegible]
琴うし人も[illegible]
花もと　思ふぞいづる
陰あ[illegible]
みまやと詠ぞ[illegible]
も雲も白雲乃上人の[illegible]
地ゆきて花見車く[illegible]
花よ待ゆよ　生玉霄一刻價文金
花よ清青月よ影[illegible]
洗ゆ[illegible]
あべさ神よ[illegible]
どき思へば人ぞ[illegible]

[illegible]露ちるく
[illegible]
[illegible]
[illegible]限りなどと
[illegible]陸奥は思ひ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水の国みなと耶耶乃枕さうや是さ
ゆを告れ口ぬ世のそろそろに長れ
告天乃ゆ一村
面れあ風宮ぬく日はまの踏る中宮
ぬ
よがりれ夢をんるやとろ巳たんの
枕よりよきを
よべきやれ作
幸國乃帝の邦位をご無まよゆゆ
アトさとその物役昇也とまりう
思りよりぬや王位をばいるぐさる
あるるるさ昇非をばいるぐさる
ぐさ邦光代をもら信ぬぐさ其揚相
ぐ帝まれ風めぐやく興よめさる
ぬ
てハうも仔とタ露のぐ

かくやくむろう習ゆめ乃
ゆゆは幸ぐくよぐきと幸ゆ思やびくく
天ゆをあるぐ上青しゆ邦
興よのアと乃角ウ
勝の髪とれ雲乃上人とあるぐ
ゆぐあるぐ潮つ
ゆより高ゆ巳れ巳ゆ花ゆあ
ま紀雲離闕や阿信殿ゆをみち
ちて言ゆ物ゆ
銀乃砂をちゆ宮方の
を生人人生ぐ
波やそよゆ寝ゆ
樂ゆかくやと思ゆ邦乃
萬伏乃宝寶の数とつくりぎ

[illegible]千戸万戸乃ゝ[illegible]の[illegible]天よ色めさ
地よひゞくを雷のこゑも[illegible]
ひゞくよ三十余丈よ　ちゝゐね芙山を
つゝきてさゞゐね乃鳳凰を出されしこと
西よ三十余丈よ　てゞゐね芙山をつゝ[illegible]
くゝ[illegible]乃月輪を出されしうたゝ
へゝ[illegible]長生殿の門よ[illegible]を開ら
不老門乃前よ[illegible]
まゝ[illegible]
乃ゝ[illegible]位よつゝ[illegible]や五十年也
郷ゝ此仙薬をきこしめさば千年一ゝ厳
まゝ[illegible]
三ゝ[illegible]
たり　そも天乃ゝ[illegible]仙

家の酒乃名也
おゝゝく仙家の盃乃
世ゝく菊乃酒　[illegible]
ゝ　君も豊よ
国も安全長久乃ゝ
しゝ[illegible]
のゝ[illegible]
めゝく彩や盃の[illegible]菊水乃
ゝ[illegible]
さゝ[illegible]
ゝ[illegible]
乃陰のめゝ[illegible]
世積りて[illegible]

寿命乃子
[illegible]

華の名も泉あれば塵あらぬ
まよいづる菊水とのめば
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

出て歌ども数しらずして人間の中に及びがたき事ども富まし給へるもいとゝ命
あるかぎり思ふ事ども新敷しらずめでたき事ども絵にかきて仏の命うれ
しさに僧正遍昭の哥こゝろのまゝ絵へ相洗石へ行枝くく
数をつくしたるやうに上わらはやまとの前と手をうつ人乃
執心成石と成たる哥ゆゑ殿上乃まゝ殿ゝ乃うた
とよ玉藻のおい殿ゝ乃ゆゑ殿ゝ乃ゆゑ

[illegible]の前をもて前が智恵をつくりたる
事[illegible]
和漢の詩学管絃よりはじめ[illegible]論を教
よ[illegible]への晴[illegible]心[illegible]
もれもとておもひて前[illegible]
[illegible]時帝の清涼殿[illegible]
[illegible]を[illegible]堪能[illegible]
[illegible]の御[illegible]秋の[illegible]月
まの[illegible]き雲れそ[illegible]の雲れ氣色を
[illegible]
し清[illegible]
め[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]前の[illegible]錦[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

野宮

昔八諸国一見ス僧ありしが我洲狂ハ
都ヨリ西ノ方洛陽ノ名所旧跡残なく
一見ス仕くしたる秋ヨリ来ル所ハ人ばかり
なく方角数ヶ所ニ到ル都一見ヨリやと
思ひ成森ヲ人ニ尋ネ人ハ答ヘ宮
ヲ回ル所ヲ問ヒ人ハ答ヘ一見ヲ
やと思ひ我洲森ヨリ来ル黒
木ハ島居ハ栄道ハ昔ヨリ変ル有
様ハ変ハらず行ヒ通ヒ来ル
ばかりなる時節ヨリ秋ヲ
ヨセ方ハ
洛ノ数ヘ乃通ヒ
可回ヒ

ハ宮ノ宮ノ
ハ
ハ
ハ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の山の紅葉の木の間の[illegible]

[illegible]

て[illegible]

[illegible]

[illegible]

月よとゆびさしてなきうれ聖く宮の
月を音や思ふらん　陸奥
松乃ちる響くも　卯の直
もしの　よれた住居ようそ
いかるる　部屋も　小築墻
窓うつ　松ひびき　秋も其人も
夢さめ世とうつ　緑よりれ松
出れ音ハ　とてもはなれたる
壁の宮乃おくふる　主宮
本ようかて　ものやい物
乃うちの島居よ出入なけ義の道
夢さや思ふ　車は
うつ　火宅乃門　出ぬらん
火宅乃うや

錦木

宮やかく　悪おれ　其通路を
寿命　是を諸国一見乃情みて
我いまく東風とかんとの程よ浅度思ふ
立陸奥に暮まで　陸奥
ろ　とめ　とゆく　雲
模　雪　かさまる
模　陸奥乃　星
錦木　細帯
織　けの
陸奥乃悪おもち　泥ゆへよ乱
うめ　我かく
嘆く　禁生　男
ちん衣手　森の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

郡[illegible]あり[illegible]ひとく[illegible]ず[illegible]ひ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

つまをつれなや　上皮元文書　佐上　錦木を　東よ
かめど弘名　人よ　をれめ　ねやの
うち　あ　うら　やあ　人　あ　つ
乃さ　ま　き　の　玄　宣　め　く　ひ　舞　の　池
か　あ　く　く　玄　紫　を　ま　ひ　を　舞　を　ま　ひ　を　浮
と　く　も　結　乃　妹　う　る　名　錦　木
織　を　細　帝　乃　玄　や　う　く　さ　ぬ　く　の
長　な　の　盃　よ　ま　て　う　月　て　歌　り　つ　り
や　く　あ　を　面　を　や　な　て　な　ま　を　ま　な　弘
夢　人　あ　う　あ　ま　な　れ　な　を　錦　木　も　細　帝
を　す　髪　も　な　れ　う　く　た　る　た　く
あ　う　の　原　け　野　中　の　場　と　そ　ぬ　よ
き　れ　の

唐
元文
か様ゑ者ハ九州箱崎のもの
ゑ　く　ハ　伝　を　ち　く　を　唐　と　日　本　と
歌　の　あ　う　ひ　あ　つ　く　日　本　の　ま　と　ハ
を　ろ　く　よ　留　め　ぶ　唐　と　ハ　日　本　よ
ち　ら　め　責　て　ん　ば　母　も　母　と　一　緒　ら　め
責　て　ハ　其　命　よ　ま　ま　よ　組　屋　宮　人　と　ら　者
を　ら　め　宣　く　ハ　ぶ　ら　や　十　三　回　よ　成
ハ　母　を　平　馬　を　あ　ま　く　持　て　ハ　逆　よ
彼　組　屋　宮　人　よ　り　付　野　ゑ　れ　を　ち　を
ば　べ　ら　も　申　つ　き　ら　や　し　た　ば
ち　ら　ち　ら　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ら　う　那　見　ハ　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ぞ　ち　ら　ま　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

[illegible]も邦父宮人のみうとき自分の賊
[illegible]
三四よりやゆめ[illegible]
けよまぬ世よまう[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治二十六年二月十七日印　刷
明治二十六年二月十七日訂正出版
明治三十五年十二月二十日別製本御届

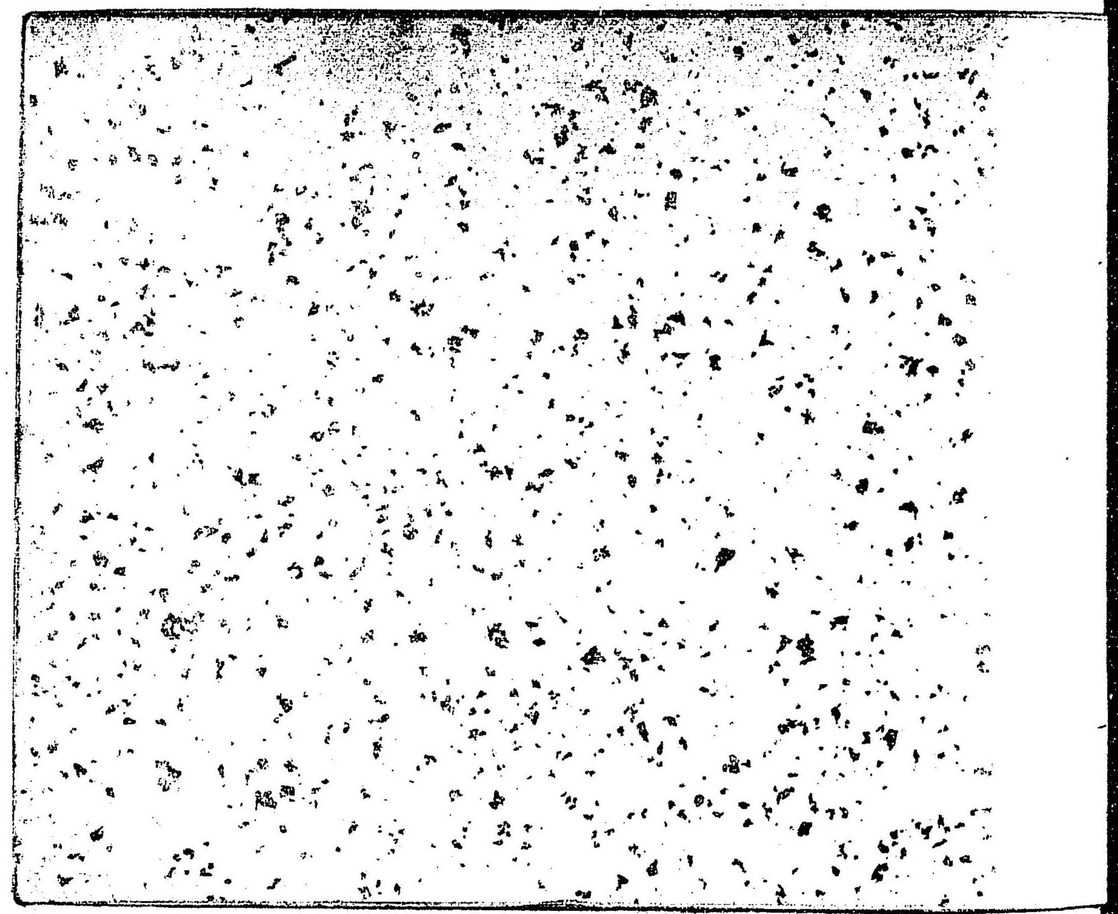
東京市牛込區新小川町
二丁目十番地
訂正者　觀世清廉

京都市上京區二條通
御幸町西十一番戸
發行兼
印刷者　檜常之助

東京市日本橋區北鞘町一石橋
販賣店　堀井吳三郎

京都市松原通高倉東入
石田旭山印刷場寫眞石版

版權所有



特57
563